なぜ、登録しないのですか？
近交上昇や遺伝能力不詳で経済損失大

（一社）日本ホルスタイン登録協会
会長　前田　勉

明けましておめでとうございます。

会員酪農家並びに酪農関係の皆様には、日頃から当協会事業に対しまして、多大のご理解とご協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。厳しい酪農情勢が続いておりますが、本年も引き続き事業推進にあたりご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

酪農家戸数は1万戸割る

昨年を振り返り、令和6年の酪農乳業関係の大きなニュースと言えば、1つは「食料・農業・農村基本法、四半世紀ぶりに改定」でしょう。この約四半世紀の中で、特に食料自給率の低い日本は、世界的な食料情勢の変化に伴う食料安全保障上のリスク増大と、気候変動や温室効果ガス削減等の地球環境問題、少子高齢化による農業労働力の不足と農業生産基盤の縮小が進んできました。今回の改正基本法では、食料安全保障の抜本的な強化と環境と調和のとれた産業への転換を掲げ、今後は新たな基本計画や酪肉近代化方針が策定されます。

もう1つは「酪農家1万戸割る」です。中央酪農会議が公表した全国の指定団体に生乳出荷農家戸数が昨年10月時点で9960戸に、5年間で約4分の1の酪農家が離農したことになります。コロナ禍による需給緩和と生産抑制、ウクライナ危機以降の物価高騰による生産コストの上昇は、新しい年もなお回復の見通しは立たないのではと懸念するところです。

離農とランピースキン病で体型審査減少

離農の増加は、当協会の登録事業にも大きく影響しています。特に昨年前半は、離農と猛暑の影響もあって出生子牛頭数が顕著に減少し、血統登録申込も低調でした。10月以降は分娩状況も少しずつ回復してきて、昨年末の血統登録頭数は北海道で前年並み、都府県でも前年度同期比で98％と僅かな減少に留まり、本年度末には前年度以上に回復することを期待しております。一方、体型審査は、離農による体型審査受検戸数・頭数の減少と、さらに昨年11月に国内初となるランピースキン病の発生で年末にはやや沈静化したとの報道があったものの、地域的にはその感染伝播の心配から、牛群審査や後代検定体型調査等の受検を控える動きが見られ、審査戸数・頭数の減少につながっています。

酪農の厳しい現況にあって、この頃は、「血統登録のメリットは?」と尋ねられることも多くなりました。個々の牛の血統（素性）が分からなければ、強度の近親交配は生まれてくる雌子牛の発育不良や遺伝病の発現によって死に至る可能性もあります。さらに泌乳等の遺伝能力が不詳であるために、どの種雄牛を交配したら良いかの適正な判断がつきません。登録しないことによる経済的な損失は結構大きく勿体ない話です。血統登録することで、これらのマイナス要因を未然に防げるわけですから、それだけでもより優良な後継牛を残すことが可能になると言えましょう。

ジーニアス、ライアスで乳牛改良前進

当協会では、本年も引き続き、登録申込書不要で通常の個別登録より500円程度「安価」な自動登録の一層の普及定着を図っていきます。また、乳用後継牛の早期選抜に有効なゲノミック評価の普及、遺伝性疾患等のハプロタイプ情報提供を行うため、牛群検定を実施している自動登録農家に対して、登録料が半額になる「自動登録同時SNP検査申込」を奨励しています。SNP検査を申込んでいただいた皆様には、パソコンやスマートフォンから、「ゲノミック情報利活用システム（GenIUS：ジーニアス）」を検索してもらえば、直近の雌牛遺伝評価値一覧と近交係数、遺伝病ハプロタイプ、未経産牛のゲノミック評価値等を分かりやすくグラフ化した情報を見ることができます。このほか、「近交情報システムWeb」や検定成績証明自動継続農家向けの「登録情報活用システム（RIUS：ライアス）」等、1つ先をめざした乳牛改良情報システムを是非利用していただき、より優良な牛群基盤を確保していただきたいと思います。

前田会長

第16回北海道全共まで9か月、成功を祈念

最後に、本年10月25～26日の2日間、北海道安平町の北海道ホルスタイン共進会場において、10年ぶり、北海道では2回連続となる第16回全共を開催します。当協会では、北海道大会の成功に向けて万端の準備を進めてまいりますので、皆様方にはご支援ご協力と、是非ともご来場いただきますよう心からお待ち申し上げます。

今年の干支は乙巳（きのと・み）。「乙」は芽吹きが成熟する様、巳は動物に例えれば蛇で、再生や知恵そして変容を象徴する動物です。負から正へ、転機再生の年になることを期待しております。本年も、皆様方のますますのご健勝とご発展、そして全共の成功を祈念申し上げて新年のご挨拶といたします。

令和６年度 ジャジング・スクールin愛知

愛知県で2度目の開催
全国140名が集結

全国ホルスタイン改良協議会（中六角保広会長）は、11月15日～16日の2日間、愛知県ホルスタイン改良同志会（浅田孝夫会長）並びに岐阜県ホルスタイン改良同志会（宮垣俊介会長）、愛知県酪農業協同組合・愛知県畜産総合センターの協力のもと、令和6年度ジャジング・スクールを「愛知県畜産総合センター」において開催した。

会場となった愛知県畜産総合センターは、愛知県ホルスタイン共進会の会場としても使用されており、屋内審査場などが十分に整備された施設である。今回で2回目の愛知県開催となったこのスクールに、北海道から宮崎までの全国140名の酪農関係者が集結した。

初日の開講式では、中六角会長から主催者を代表して地元ホルスタイン改良同志会をはじめ各関係機関に対する感謝の意が述べられ、次に地元ホルスタイン改良同志会の浅田会長から歓迎の挨拶が述べられた。引き続き、会場となった愛知県畜産総合センターの江本所長から祝辞が述べられスクールは開講した。

挨拶を述べる中六角会長と参加者たち

２日目の研修　グランドチャンピオン決定審査の進め方

パネラーに細野淳氏

スクールの重要な役割を担うパネラーには、昨年度に引き続きアルタジャパン（株）の細野淳氏を招き、ショウジャッジにおける技術指導が行われた。また、参加者の審査講評技術について評価・助言を行うアドバイザーには、北海道瀬能剛氏・北海道山内誠氏・静岡県高橋直人氏を招き、4名を代表してパネラーの細野氏よりジャッジマンの役割と審査講評の重要性について解説が行われた。

初日の座学　講師は日本ホル協・椛沢審査委員

序列付けと審査講評技術を研修

開講式の後、今回が初参加の一般クラスと学生は、ホルスタインの審査標準・好ましい審査手順・審査講評のポイントについて座学による研修を行った。また、ジャッジマン候補・認定ジャッジマンは審査会場において、ホルスタイン種未経産1クラス・経産2クラスの計3クラス（4頭1組）について、それぞれが序列付けを行い、答案提出後に指名された受講生がそれぞれの序列付けに基づき審査講評を行い、最後にパネラーの細野氏による模範解答と審査講評が行われた。

酪農講演会を開催

スクールに併せて開催した酪農講演会には、①東海酪農業協同組合連合会参事の塩治隆志氏並びに②（一社）家畜改良事業団前橋種雄牛センター東海近畿事業所の藤久明氏を講師に招き、①「生乳需給を巡る情勢」並びに②「NTP2024その特徴」と題し講演が行われた。

好ましい審査手順の研修

2日目は、愛知県酪農業協同組合の鈴木組合長より激励の挨拶が述べられた後、審査会場で受講生全員が計4クラスの研修を行った。その後、未経産・経産の各クラス上位2頭を出品し、グランドチャンピオン決定審査の進め方や、審査講評はもちろん主催者や出品関係者への謝辞等、そのショウを締めるまでがジャッジマンの重要な役割であること等の解説が丁寧に行われた。

最後に、中六角会長からパネラーの細野氏と審査講評アドバイザー、そして素晴らしい供試牛を準備いただいた地元同志会に謝辞が述べられ、スクールは閉講した。

ジャジング・スクール参加者集合写真　愛知県畜産総合センターにて

今後の行事　日本ホル協

◇令和6年度社員会議
　＜東日本＞令和7年2月14日（ビジョンセンター品川）
　＜西日本＞2月7日（福岡朝日ビル）
◇令和6年度冬期登録事務担当者会議
　2月3日（Web開催）
◇第327回理事会
　3月21日（ビジョンセンター品川）
◇第328回理事会
　5月30日（都内）
◇第329回理事会
　6月20日（AP東京八重洲）
◇第75回通常総会
　6月20日（AP東京八重洲）

日本ホル協臨時総会
檜尾氏（岡山県）を新理事に選任

日本ホル協は昨年12月11日、令和6年度臨時総会を開催し、長恒泰治理事（岡山県）の退任に伴う役員の補欠選任を行った。後任の理事には、おかやま酪農協組合長の檜尾康知氏を選任した。

檜尾理事

日本ホル協特集